一家の秋　五島奈良尾・有川クルージング

2022 年 9 月

遠藤周作の小説「沈黙」で描かれた五島列島。主人公が身を隠していた外海（長崎県西海）の町から、手漕ぎの船で深夜の五島灘を渡り、隠れキリシタンの新生児に洗礼を与え、その後、島内を山狩りする官憲から逃げまどい、ついに捕らえられた島。小説の舞台は、五島列島の福江島や久賀島、奈留島と思われます。今回のクルージングの目的地は、それらの島々の北側に位置する中通島。同じく隠れキリシタンが苦節の末に江戸時代を生き抜いた島でもあります。

今回のクルージングは「沈黙」を読書した直後でもあり、これまでと少々違い、島を訪問する気持ちに変化がありました。平野が少ない島を開拓し、時に官憲から村を焼かれたであろう隠れキリシタンを思い浮かべながらの旅となりました。

赤丸が今回の訪問地

●ポンツーン手配

当初、中通島の北側に位置する有川港を目指すことにしていました。しかし、事前に上五島役場の担当職員さんから「有川港のフェリー桟橋はあいにく、他船が予約している」との情報を頂き、寄港 3 日前に奈良尾港のフェリー桟橋へ目的地を変更しました。この変更と手配、実は港を管理する町役場の職員さんの調整によるでもあり、大変に助かりました。

というのも従来、ヨット乗りは「桟橋手配」「岸壁手配」といった事前の入港手続きをし

ません。しかし、五島はプレジャーボートによる来島を歓迎していて、新上五島町役場の方が親切に場所を手配して下さいます。有川港であれば建設課（新上五島町役場　建設課　管理班　〒857-4495　長崎県南松浦郡新上五島島青方郷 1585-1　TEL　0959-53-1118　FAX　0959-52-4665）、奈良尾であれば水産課。「ヨット・クルーザーで来島される方へ」と題して、HP で説明しています。

HP 抜粋（有川港）

HP 抜粋（奈良尾港）

一見、メンドクサイ事務手続きなのですが、連絡船や作業船が常時入港する島の港ですから、ヨットであっても入港の調整は必須かと。特に、便利な桟橋の使用を希望する場合は、その事務手続きを省けません。今回も、仮に事前の手続きなく有川港へ入港していたら、着岸場所の確保、係留作業、家族の上下船に手間取ったものと思われます。

やり取りは次のとおりです。当初、上五島町役場の建設課へ観光目的の岸壁（桟橋）使用申請書（別添）をファックスで提出したところ、折り返しの連絡があり「有川港のフェリー桟橋は現在、港内で作業する船舶が常時、使用しているので着岸できないのですよ。岸壁なら空いていますが」とのことでした。そこで私は「小さな子供もいるので、岸壁からヨット

への乗り降りは一寸、難しいかもしれませんね」とコメントし、ふと「奈良尾港は空いていますかねぇ？」と訪ねると、「水産課へ電話を転送しますね」と親切に対応してくださいました。すると建設課から私へ折り返しの電話がすぐにあり「奈良尾港のフェリー桟橋は現在、空いていますよ。どうぞお停めください」との由。五島はやっぱり人にやさしい。

実際、有川港を訪問すると、警察艇がフェリー桟橋の来訪艇用の場所を使用していた。

有川港フェリーターミナル（来訪艇は桟橋のターミナル側に係留可能）

●またもや整備

今回のクルージングの約 1 か月前、またもや出入港に必須のエンジンにトラブルがあった。エンジン始動直後は順調に排出される冷却水が、不意に途中で止まる。エンジンルームを開放すると、ベルトも冷却水ポンプのプーリーも回転している。さっそく分解してみるが、サーモスタットもエルボも問題ない。インペラの羽にも異常はない。不思議に感じながらインペラの羽を触っていると「ん？？？」。なんと、インペラのゴムと軸芯が剥離している。

どうも、前回折れたインペラの羽が、ポンプの出口に引っ掛かっていたこともあり、常時、水圧が上がってしまい、インペラの軸芯がゴムから剥離したようだ。こんなこと、あるので

すね。

軸芯から剥離したインペラの羽

●出港準備から奈良尾港到着

出港の 1 週間前から、平日の休み、息子らの学校の時間に夫婦揃ってマリーナへ通い、燃料搭載や飲料水の搭載、雑用清水の搭載を完了させました。そして、恒例のレンタカーの予約。7 月末の福江クルージングに引き続き、今回も大手ではなく、地元のレンタカー屋さんで手配することに。奈良尾港直近の「奈良尾レンタカー」へ電話すると、おばちゃんが出て「連休中は込み合っていて、ガソリン車は出払っているのですよ。小さな電気自動車しかなくて。。」と申し訳なさそうに申される。しかし 1 泊 2 日で 6,600 円。燃料費（充電代）は無料ということで、私としては願ったり叶ったり。前回の奈留島以来の同じ小さな電気自動車（軽サイズ）ということもあり、ワクワク感が否めません。

そうこうするうちに 9 月 23 日の出港当日を迎えました。当日の朝、マクドナルドで朝食を調達。眠い目をこすりながらマリーナへ到着。朝 8 時に出港。片道 38 マイルの奈良尾港を目指しました。

眠い目をこすりながら出港用意

当日、北の風 5 メートルから 6 メートルと絶好のセーリング日和なるも、途中、しゅう雨に見舞われ、若干、寒さを感じました。北のうねり 1 メートル、波高 50 センチでしたが、

次男は 2 回、長男は 1 回の船酔いに伴う●●を。家内は終始、船酔い状態で、前回 7 月末の福江クルージング引き続き、可哀そうな思いをさせました。

そして、あっという間に奈良尾港へ到着。5 月以来の寄港。人気も少なく、周囲に緑も多く、本当に静かで落ち着きます。

定位置（指定場所）に係留。長崎からのジェットフォイルが到着するときは、人目が多く、若干、恥ずかしい

●有川散策

午後 3 時、フェリーターミナルの駐車場で「奈良尾レンタカー」の方と合流し、電気自動車を受け取る。レンタカーをヨットの近くまでフェリーしてくれるサービスは、地元密着のレンタカー会社ならではのサービスかと。有難い限り。すぐさま家族全員で、丘の上にあるホテル・マルゲリータに向かい、フロントにて翌日の夕食弁当を注文。1,000 円の焼肉弁当、700 円強のアジフライ弁当を注文。翌日午後 6 時のピックアップをアレンジしてもらった。引き続き、同ホテルに隣接しているスパで入浴。家内と息子らは塩気を落とし、体を温めることもでき、船酔いも落ち着いた様でした。

入浴後、さっそく、小一時間かけて有川港へ。目的は夕食。途中、海辺のラグーンに浮かぶ見事な白い教会、中ノ浦教会を望み、隠れキリシタンに思いを寄せながら到着したのは、職場の部下の親戚が経営する焼肉「有洪園（ユウコウエン）」。日々、節約なるも、この日だけは家族に対し、好き放題の注文を許可!?

出港の数日前、家内へ「有川で、五島牛を食うぞ」と伝えたところ「そんな高級な肉を貴方が食べさせてくれる筈はない」とコメントが。

しかし、リベンジのチャンスがイザ到来。家内が有洪園の方に「このお肉はどこのお肉なのですか」と質問すると、「五島牛ですよ」とサラッと回答が。私はニンマリ。メニューにも、店内のどこにも五島牛なんて書いてないけれども、有る所にはあるのですね、贅

沢で美味い肉。価格もそんなに高額でなく、アフォーダブル。幼稚園の次男は長崎へ戻った後、幼稚園の先生に「大好物は五島牛なの」なんて、言ってのけたそうです。私としては、息子と家内が喜んでくれて嬉しい限りの夕食でした。

最後は、アイス（180 円）で〆ました

その後、電気自動車の充電を兼ねて有川港へ。「鯨賓館」と名付けられたフェリーターミナルには大きなクジラの模型が展示してありました。流石、かつて捕鯨で栄えた街。

「鯨賓館」ミュージアムは同じフェリーターミナル建物内にあります

電気自動車の充電が終了し、陽が沈みかけてきたので奈良尾港のヨットに戻ることにしました。すると、途中、車窓から見たこともないような素晴らしい夕焼けが広がります。

上五島は「矢堅目の夕日」で有名と家内より聞きましたが、本当に綺麗なオレンジでした。

その夜は、夜中に星を眺めることもなく、ヨットのキャビンで４人共々、爆睡でした。

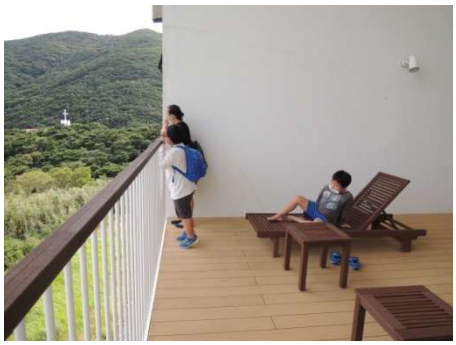
●クルージング２日目　蛤浜とスパ

翌日はヨットで朝食をとり、電気自動車に飛び乗って、再び有川へ。目的地は蛤浜。永遠に続きそうな白い遠浅の砂浜。今回のメインの目的地。到着後、家内が早速、お宝を発見。砂浜に一寸だけ顔を出した貝殻を拾い上げると、

ありえないサイズの貝殻が

誰も泳いでいない季節外れの寒い海水浴でしたが、遠浅の蛤浜を存分に楽しみました。

冷たい海で泳いだ後は、温泉へ。上五島有川には、もう一軒のホテル・マルゲリータがあり、日帰り入浴が可能。家族 4 名で 2000 円なり。ラッキーなことに誰も居ない貸し切り状態でした。浴室内部は白と黒のモノトーンで統一された壁面まで大理石のモダンな造り。男性より高層な場所に女性用の浴槽があり、それらは東西 2 か所に開けていて、同時に望めることができる東シナ海と五島灘は絶景。そして、デッキから望む教会の白い十字架に、またもや隠れキリシタンを感じました。カトリック系の熊本マリスト学園高校出身の私にとって、その縁で五島へ頻繁に通うことになったものかと感じた次第でした。



休憩デッキからの眺望。スパから同じ眺めを楽しめる

その晩の夕食は前日注文したホテルのお弁当。静かな奈良尾港に停泊したヨットのデッキで頂く焼肉弁当は激美味でした。

●クルージング 3 日目　帰港

この日は淡々と、マリーナへ帰港することに。風もなく、夏の戻りのような日差しの中、機走すること 7 時間。到着後、片付けを終えると、次回のクルージング計画!?について語り合う兄弟を見かけました。

シャワーでさっぱりした後、語り合う二人

●後日の再発見

2 泊 3 日のクルージングを終えた 3 日後の夕方、捕鯨の町、有川に因んだ訳ではありませんが、マリーナから 1 時間の「くじら浜」へ海水浴に出かけました。この時、「本当に長崎はヨット環境に恵まれている」とツクヅク感じました。日頃から、学校帰りの子供たちを連れだして、マリーナに係留中のヨットからダイブし、桟橋直下の熱帯魚と戯れているのですが、この誰も居ない「くじら浜」はそれと比肩して格別。

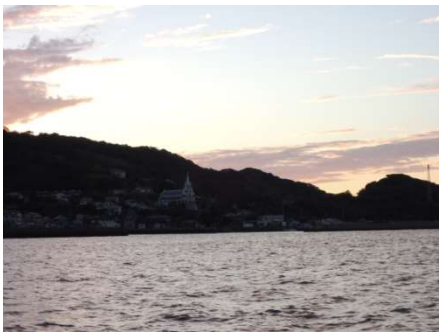
水深 3〜4 メートルのアンカリングポイントから泳いで 100 メートル弱で子供でも問題なく上陸できる小冒険の砂浜。駐車場を併設しないその浜は、ロープロファイルで、満潮時はすべて海水で埋まることから常にクリーン。透明度の高い海水が真白の砂浜に覆いかぶ

さり、その青さは、日によっては表現できない美しさ。

来年度、転勤ナシで、長崎に留まることができればと念じる次第でした。

アンカリングして、ダイブ。この日は然程、蒼くない海。

満足するまで泳ぎ、夕焼けの中を帰港。本当は帰りたくない



途中、右に夕暮れの長崎港、左に伊王島の美しい教会

そして日本一の環境といえるマリーナへ戻る

●次回

次のクルージングは 11 月、平戸を目指します。また、旧知の浦田造船所へ。キャンプ場が併設されているその造船所は、まさにヘブンです。（(有）浦田造船所　FRP 高速船・遊漁船・プレジャーボート・クルーザーの製造・販売（urata-zousen.com)）グランピング九州｜グランピングビレッジシーグラン（glamping-seagrand.com)